

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人 社団 大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑1号館		
所在地	阿蘇市一ノ宮町宮地5857-1		
自己評価作成日	H24年9月5日	評価結果市町村受理日	平成24年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号		
訪問調査日	H24年9月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」私たちは、人々に明かりと輝きをもたらします」の理念のもと、入所者様が安心して過ごせるよう心がけています。その一例がケアプラン。ホーム職員はもとより、母体病院の理学療法士、作業療法士、管理栄養士等が集い多方面から入所者様を見てその方がより安心して過ごされるように支援を検討し支えている。医療面が充実しているのも大きな特徴。大阿蘇病院との連携が重視され、既往歴があっても安心して入所できる。広い敷地内をゆっくりとした雰囲気の中で個性的に重視を置いたケアを提供している。職員も有資格者である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時より「一隅を照らす」を理念として、一人ひとりの生活歴や性格、思いを把握し、自分らしい暮らしに注視した暮らしをプランに反映させ、活性温熱療法による集団コミュニケーションが入居者のがんばろうという意識を向上させ発語に繋がる等効果が出ている。母体病院との強固な連携は本人・家族のみならず現場で働く職員の安心に繋がっていることは特筆できる一つであり、雄大な阿蘇の自然や管理者を中心に高い目標を掲げた職員により見守られ、「最期のときもホームで」と全員が心一つにしたケアは穏やかな表情に表出している。職員の思いやりの心を持ったケア姿勢が、居室作りや生活感・季節感・五感刺激等に配慮した共有空間となり、職員は笑顔で関わり、個々の動きや気持ちの変化への寄り添いが入居者の笑顔を引き出した温かみのあるホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし毎週1回の朝礼で唱和を行い理念をもとに個々の入所者様の立場場に立ったサービスを提供している。	地域密着型ホームとしての姿勢と、ユニット毎に毎月目標を掲げ、週毎に評価しながらケアに当たっている。又、朝礼時の唱和や、各ユニットに大きく掲示し意識向上を図り、“その人らしい生活”の実践に家族の意向をプランに反映させる等、基本方針は全員に浸透し、温かみのあるホームが形成されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出(花見・イチゴ狩り)時に地域の方とふれあいあいさつを交わし行事(文化祭・納涼祭)など交流をする機会を設け地域の方と一緒に時間を共有できる様に努めている。	民家は少ないものの、母体である病院や併設の小規模多機能ホーム・認知症デイサービス等も地域と捉えた相互交流や、散歩時の近隣住民との歓談、地域からの招待による敬老会やどんどや、文化祭や納涼祭等への参加、職員も清掃作業に参加する等地域の一員として活動し、ホームも地域住民との交流会を企画している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1回/2ヶ月の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加して頂き施設の現状を報告し認知症の方の理解を深めていただいている。意見交換の中では、暮らしの役立つことがないかなど話しし地域に開かれたサービスをし、サービスの質の向上に努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6回/年開催している。活動、サービスの内容取り組みなど報告している。又、そこでの意見、提案、要望を受けサービスの向上に生かしている。	地域密着型サービス事業所合同で開催する運営推進会議は、活動報告とともに活発な意見交換が行われている。会議中での情報を日常生活に活用し、地域ボランティアの訪問やEM菌づくりは近隣住民との接点を深める等サービス向上に反映させている。また、ホームの現状報告は認知症ケア啓発として活かされている。	運営推進会議の内容等は家族代表よりの報告により家族との共有化が図られている。参加者も積極的な意見が出されており、代表以外の家族への参加案内により、更に広く意見や要望を聴く機会されることを期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず参加して頂いている。担当者の方とは市役所へおもむいた際は運営上の問題点や利用の方の情報交換、現場の実情等を伝えるようにしている。	市担当者の運営推進会議参加時にホームの現状等情報を発信し、書類提出や困難事例の相談に窓口に出向、適切なアドバイスを等得る等協力関係を築いている。生活保護担当者との情報を共有しながらケアサービスに反映させ、市開催の研修等に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットに1名の身体拘束委員がおり委員会を中心に定期的な勉強会を行っている。また、拘束を行わない為どのようなケアができるのか、カンファレンスの時話し合っている。	身体拘束廃止委員会での事例検討やホームの委員中心に勉強会を開催している。特に新人職員には自身が拘束を体験することで弊害を認識させている。管理者は日々の言葉づかい、特にスピーチロックには注意することを指導し、職員同士もお互いが注意喚起しあえる環境を作っている。入居者個々の外出傾向を把握し、一緒に散歩に出かけたり、室内を歩く方等玄関等は開錠し、隣接事業所の職員の見守り協力を得ながら自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修に参加し事業所内で拘束、虐待がないよう日々心がけている。又、介護者による虐待、拘束についても見過ごされることがないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これからの制度について職員をはじめ家族などにも周知を図れるように外部研修や院内研修に参加し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様、ご利用者様に分かりやすいように時間をかけて説明し、不安や疑問などないかお尋ねしている。契約書には説明した職員の氏名を記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方からより多くの意見や要望を出してもらえよう、年2回の家族会では、ご家族が意見を言えるような環境づくりをしている。また、意見が反映されるようにミーティングを開き全員で話し合えるようにしている。	入居者には日常のコミュニケーションの中から要望等を引き出している。家族には訪問時に意見や要望を聴集しており、家族の意向により布団敷きの生活に変更する等ケアサービスに反映させている。また、家族会も要望により開催時期を変更し、家族会同士の話し合いの場や担当職員と家族との相互コミュニケーションの場を作っており、問題提起の場として活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティングで聞くようにしている。働く意欲の向上や質の確保に努めている。	管理者は申し送り時や毎月の会議の中で意見や要望を聴集したり、調理担当スタッフとのミーティングの場を作り、ケアや調理に反映させている。また、代表と管理者は電話やメールで相互連絡を取り、代表もホームを訪れ、職員との対話や入居者の状況を把握している。職員の個々の年間目標に管理者も進捗状況を確認し、個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2回／年の人事考課を実施している。その中で努力や実績について話し合えるようにしている。資格取得に向けてのアドバイスも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自の立場、経験や習得度の段階に応じた学びの機会を作っている。2回／年の人事考課の職種別専門シートにてこの力量を把握するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の地域密着連絡協議会で、他施設の方たちと交流をしたり、研修会に誘っていただき一緒に学びお互いの情報の交換等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何を要望されているか、ご本人・家族と向き合い気持ちを受け止めている。安心できる馴染みの関係を取り組み信頼関係が構築できるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に事前に入所者様のことを伺い思いや要望を受け止め安心して入所され生活が送れるようにしている。又、ご家族の気持ちを受け止め信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様、関係機関から情報を頂き、施設代表、管理者、計画作成者でその方にあった支援を見極めサービスできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を確認し日々の生活の中で出来ることを(茶わん洗い・茶わん拭き・洗濯物たたみ)個性を発揮し活力となるようにしている。していただいたことは感謝の意を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず情報の交換を密に行い外出・行事、誕生会にはお越し頂きご家族の方との絆が途絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時代の知人、婦人会の仲間の方が気軽に面会に来ていただけるようにしている。面会時には情報を得るようにし、それぞれの関係が絶えないように支援している。	地元の敬老会に参加される方や民生委員・お寺、古くからの知人の訪問、買い物や仏様参り等家族の協力も得ながら支援している。また、幼なじみや近所付き合いをされていた方等入居者同士が馴染みの関係にあり、晩酌の継続等個々の状況を把握し馴染みや習慣等の関係性を継続させている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの方が気軽に遊びに来て親睦が出来るように配慮している。又、一人ひとりが孤立しないように会話の橋渡し共に楽しめるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して他の施設に移られてからも面会に伺いその後の様子を伺っている。ご家族の方にお会いした時は相談やアドバイスも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重し、拒否がある時は、無理強いしないケアを心掛けている。又、ご本人の思い、訴えは必ず受け入れ関心を持ち思いを探るようにしている。	職員は高齢化・重度化傾向にある中において、一人ひとりに寄り添い、その時々の状況や背景等を探り、その時の会話から思いを推察したり、表情・言動からの把握や家族からの情報をカンファレンスで話合っている。入居者本位の生活を第一に、薬や入浴拒否等にも無理強いしないケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、生活環境を把握し、生活の中での出来る事を自分らしく楽しみながら行えるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごされている様子で、ご本人の状態観察を行い体調不慮の時は休んで頂いたり、体操やレクリエーションの拒否は無理強いせずその方に合ったケアを心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望を伺い、介護計画書を作成し、説明し同意を頂いている。会議の時には、意見、アイデアを出し合いその方に合ったホームでの生活が快適に過ごしていただけるように作成している。	毎月担当職員のモニタリングを参考に、ケアマネジャーが評価し、変更か継続を見極めている。介護認定更新時や短期目標及び退院後の見直し、また、重度化に家族・主治医を交えて方向性を検討する等現状に即したプランを作成している。又、家族の訪問時に意向や要望を聞き取り、プランを説明し納得を得た上で正式のプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、かかわったスタッフしか知りえない事実やケアの気づきを記録に残し、申し送り時や、会議の時に情報の共有をし実践につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあったサービス、家族の希望を取り入れ柔軟に対応できる様努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を開き、区長さん、地域の民生委員の方に参加していただき協力を得ている。又地域の行事(除草作業等)にも積極的な参加、区長さんより環境問題等についても助言いただきEM菌作りを伝授している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に母体の病院で受診、検査を受け、利用者様の体調維持に努め、ご家族の希望があれば、かかりつけ医での受診も受けられるよう支援している	母体医療機関をかかりつけ医とされる入居者は、夜間・日中の状況を主治医に報告し、異常の早期発見や早めの受診に繋げている。家族が受診に対応する場合はホームでの情報を託し受診結果を共有している。訪問歯科等希望や状況に応じた適切な医療受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化にいち早く気づき、看護師に報告している。夜間の急変時の対応もマニュアルを作成し、緊急時の対応に備えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、日々の情報を病院関係者に伝え、又入院時の様子等も、面会を通して退院後のため病院関係者からの情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の説明は家族に行っており、その人らしい終末期になる様、その場合何度もミーティングを行っている。又母体病院とも連携を密に行い体制をとっている。	入居時に指針を説明し、重度化に主治医を交え繰り返し話し合い、家族の意思を確認している。母体医療機関との連携体制の確立や、看護面の指導及び急変時のマニュアルに沿った勉強会等、管理者は職員のレベルアップに努め、現在も重度化・終末期の入居者を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等で救急蘇生での対応は、全スタッフ出来る様研修を受けている。又その際の連携などのマニュアルも作成し、緊急時に備えている。ミーティングなどでも話し合いをし実践に繋がるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練実施で災害時の対応がスムーズに出来る様に努めている。防災訓練では地域の方、ご家族様にも出来るだけ参加して頂けるような声かけを心掛けている。	今年7月の水害では防災テレビ電話が活用され、ホームに直接の被害はなかったものの防災体制の重要性を再認識し、個々の持ち出し品をまとめて準備し、家族代表の意見により、連絡体制を強化している。今月実施予定の法人合同の防災訓練には家族会や近隣に声かけをする予定であり、運営推進会議で地域の避難場所の確認をしており、法人と連携し入居者の安全の確保に取り組んでいる。	非常災害時のマニュアルが整備されており、机上訓練やシュミレーションで更に意識付けとされ、非常時の備蓄について再度の話し合いが持たれる事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーに配慮し、言動に注意しながら業務を行っている。人生の先輩という気持ちを忘れず尊厳をもったかわりをスタッフ同士で、日々のケアの中でも心掛けている。	これまでの生活歴を大切に「人権に配慮しその人らしい生活の支援」を基本方針の一つに掲げ、職員は言葉づかいについて気付いた時にお互い注意しあっている。トイレ誘導時のさりげない声かけやオムツ交換時はパーテーションで仕切る等プライバシーの確保に努めている。個人情報保護に取り組み、守秘義務については人事考課時に自己評価し意識付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体に、それぞれの能力に応じ、安心して話し合える環境になることを心掛けている 人権を無視した言葉かけやプライバシーを侵害する様な言動はスタッフ同士で注意しあっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態を観察し、ご本人が楽しみや興味を持って参加できる活動への支援を行うようにしている。又、一人の時間を楽しみたい方は自室で過ごしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望を伺い、その人らしいおしゃれができる様に、本人の意向を聞きながら身だしなみの介助を行っている。又月に1回の理美容の方の訪問(散髪、時には化粧等楽しんでいただいている)を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや下ごしらえ等ご本人ができる範囲で手伝っていただき、一緒に作り食事をするという楽しみにつながるように支援している。食後も食器洗いや食器拭き等も出来る範囲で一緒に行っている。行事等の食事は、利用者様の希望に添ったメニューを考えている	入居者は下ごしらえや茶碗洗い等できる事を手伝い、時には畑で収穫した野菜が食卓に上り、誕生会の好物メニューや竹に工夫を凝らしたそうめん流し、個別の外食等に取り組んでいる。嚥下状態に合わせた形態や食べやすい切り方、温野菜での提供と様々に工夫し、職員も一緒に同じ食事を摂り、横に座り寄り添う事が安心した食事となる方等個々に応じた支援である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理下で、摂取すべきカロリーを提供している。一人ひとりの状態、状況に応じて食事の形態を考へ提供し、水分1500cc以上摂取出来るように支援している。摂取量の少ないご入所者様には高カロリー食の提供をしている。又、嗜好飲料についてもご本人の希望のものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、うがいをする様に声がけしている。夕食後は義歯洗浄が出来る様援助している。協力歯科医より義歯の調整等をしていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導や、排尿間隔を把握し、早目の声掛けを行っている。また、排泄のサインを出す方もいらっしゃるのでスタッフ一人一人がサインを見逃さないように心がけるような声掛けを行っている。	排泄チェック表に記入し、サインを出される方、尿意のない方等個々のパターンを把握しトイレに誘導している。又、下着の使い分けで失敗を減らしたり、排泄用品の節減とし、出来る限りポータブルを使用しないケアを継続して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に1回はさつまいものおやつ、又、毎日手作りのヨーグルトも食べていただいている。水分を多めに取ってもらったり、体操等に参加して体を動かしたるべく自然排便ができるような支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴していただいている。ご本人の体調、気分配慮し入浴できない方は、ドライシャンプーや足浴、清拭等の対応を心がけている。拒否のある方には時間をおいて声掛けする等それぞれの希望に合わせて入浴を楽しんでいただいている。	家庭的な浴室でゆっくり寛げるように努め、一番風呂の希望に応えたり、足浴や清拭・ドライシャンプー等、体調やその日の気分を考慮し支援している。拒否の方には職員で話し合いながら言葉かけに工夫し、週3回を目安に間隔が空かない様に清潔保持に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や状況に合わせて日中に短時間の間の臥床時間を設けたり、ソファアなどもくつろげるようクッションやひざ掛けを用意している。又、寝具棟は安心して眠れるようご本人様が使用されていたものを持ち込んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルしてスタッフ全員がいつでも確認できるようにしている。症状変化時、病院受診結果によって薬の変更等があればその都度送りし把握できるようにしている。副作用に注意しVS測定や体調の変化に注意する様心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	昔されていた事やできる事等本人様が役割をみつけ日々の暮らしに楽しみや張り合いが持てるよう支援している。(洗濯物たたみ、食器拭き・野菜の皮むき等)月1回の生花教室や、行事(誕生会、日帰り旅行、季節行事等)を計画し実施している。晩酌をたしなまれる方は夕食後に提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様に希望や必要に応じて家族・スタッフの付き添いにて通院等の外出の支援を行っている。コンビニなどにも同伴して買い物に行ったり、阿蘇山が眺められる場所にも同伴している。	敷地内を散歩し隣接の小規模やディの方とのふれあい、畑の野菜の育ち具合を見に行く等気軽に外に出られる環境である。通院やコンビニでの買い物に母体病院まで出かけたり、家族の協力を得た外出の機会をもっている。また、季節毎に花見等に出かけている。	高齢化や重度化で外出の機会は少なくなってきたものの、外出する機会を作っており、今後も継続した取り組みにより楽しみや気持ちよく生き生きとした生活に繋がることが期待される。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や状態によって、所持していただいている方、ご家族様より預かりで管理している方がいる。買い物に行きたいときは同伴しご本人の希望に応じて使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族の方に取り次ぎ、話してもらったり、携帯電話を持たれている方は自由に電話してもらっている。又阿蘇市内であればTV電話が活用できるので状況に応じて活用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る様心掛けたり、スタッフ手作りの季節の壁飾りを毎月作っている。庭にはベンチを置いて散歩時休憩ができるようにしている。夕方にはリビングに夕日が差し込むのでブラインドやカーテンで陽ざしが直接当たらないような工夫をしている。	各ユニットで造りは異なっているが、入居者が集うリビングは、花や入居者の作品・壁飾り等で季節感に溢れ、ホーム内の椅子やソファ・玄関前のベンチ等で休憩の場所を確保している。阿蘇の山々が目前に眺められる静かな環境の中、温湿度管理を徹底し、清潔で快適な共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下にソファを置き、好きな時に座ってもらっている。一人になりたい方、ご入所者同志のコミュニケーションの場になるよう見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が以前使用されていた馴染みの家具・寝具等を持ち込んでもらい、居心地よい暮らしをして頂ける様配慮したり、ご両親様やご兄弟の方の写真を貼ることで安心感を抱いていただけるようにしている。	使い親しんだ品物(家具や小物)を持ち込み、詩や写真等で家族と共に居るような落ち着いた居心地良い居室となっている。趣味の観葉植物を育てたり、床にふとん敷きの部屋には立ち上がり用の手すりを取り付け、ベッドの頭部に手作りのカバーを掛ける等一人ひとりに合わせた職員の気配りや家族の思いが溢れた居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置している。十分なスペースで車椅子などもゆっくり移動できる。トイレに看板を付けたり、手すりを使用し、ご自分の力で歩行・立位が出来る様工夫している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700940		
法人名	医療法人 社団 大徳会		
事業所名	大阿蘇病院 グループホーム さくら苑2号館		
所在地	阿蘇市一ノ宮町宮地5857-1		
自己評価作成日	H24年9月5日	評価結果市町村受理日	平成24年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市南熊本三丁目13-12-205号
訪問調査日	H24年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一隅を照らす」私たちは、人々に明かりと輝きをもたらします」の理念のもと、入所者様が安心して過ごせるよう心がけています。その一例がケアプラン。ホーム職員はもとより、母体病院の理学療法士、作業療法士、管理栄養士等が集い多方面から入所者様を見てその方がより安心して過ごされるように支援を検討し支えている。医療面が充実しているのも大きな特徴。大阿蘇病院との連携が重視され、既往歴があっても安心して入所できる。広い敷地内をゆっくりとした雰囲気の中で個性的に重視を置いたケアを提供している。職員も有資格者である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一隅を照らす」を基本理念とし週1回の朝礼では唱和することで理念の意識づけをし、ご利用者様本意のサービスを行うようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事は参加出来るものは声がけして頂いている。又、地域の除草作業に参加したりEM菌つくりの指導を区長さんよりして頂いただき積極的にふれあう機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1回/2ヶ月の運営推進会議に民生委員、地域の方に参加して頂き施設の現状を報告し認知症の方の理解を深めていただいている。地域に密着したサービスを地域の方に知って頂くため交流の計画をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は6回/年開催している。活動、サービスの内容取り組みなど報告している。又、そこでの意見、提案、要望を受けサービスの向上やケアに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に必ず参加して頂いている。そこで運営上の問題点・情報交換会を行っている。又、市役所の担当者の方とは連携を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会に参加し理解を深めている。研修で学んだことを日ごろのケアにつなげていけるように職員全員が日々心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修に参加し事業所内で虐待がないよう日々心がけている。又、入所者の方のちょっとした変化や言葉にも耳を傾け虐待がないか見過ごされる事のないように防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、外部研修研修、内部研修に参加し学ぶ機会を設けている。また、資料を職員がいつでも見られ場所に置いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご家族様、ご利用様に分かりやすいように時間をかけて説明し不安や疑問などないかお尋ねしている。料金の改定があった場合理由や説明を史同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2階の家族会を開催して意見、要望を出していただいている。又、面会の時にも何か要望はないか話の中で伺い、それらをミーティングのなかでスタッフ全員で話し合い運営に活かせるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティングで聞くようにしている。又、その中で話し合いを儲け共通理解を図りそれぞれが働き甲斐のある職場作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力や実績においては、2回/年の人事考課を実施し、個別で話し合いを設定してやりがいをもち仕事ができるように心がけている。又、個々でも相談があればその都度話を聞き職員が向上心を持って仕事ができるようにアドバイスしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量は2回/年の人事考課の職種別専門シートにて把握している。それぞれが事業所内外の研修を積極的に参加、また、就業しながら資格取得できるように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上	地域の地域密着連絡協議会に参加し研修		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の地域密着連絡協議会に加入、研修があれば参加し他施設の方たちと交流をし、お互いの情報の交換をしてサービスの向上に心がけている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して入所生活ができるよう積極的に信頼関係づくりを心掛けるとともに何を要望されているか耳を傾け馴染みの関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に要望や不安な事がないか傾聴し支援できる様にし、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様、関係機関から情報を頂き、施設代表、管理者、計画作成者でその方にあった支援を見極めサービスできるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意向を確認し日々の生活の中で出来ることを(茶わん洗い・茶わん拭き・洗濯物たたみ)引き出し活力となるようにしている。していただいたことは感謝の意を伝えるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には必ず情報の交換を密に行い外出行事、誕生会にはお出で頂き家族の方との絆が途絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	在宅時代の知人、親類、婦人会の仲間の方が気軽に面会に来ていただけるようにそれぞれの関係が途絶えないようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援	此...		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他ユニットの方が気軽に遊びに来て親睦が出来るように声がけしている。又、一人ひとりが孤立しないように会話の橋渡しをするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所して他の施設に移られてからも面会に伺いその後の様子を伺っている。ご家族の方にお会いした時は相談やアドバイスも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重し、何気ない言葉や表情仕草を見逃さないように心がけている。また、入所者様本位の視点からのケアを大切に月一回のカンファレンスでスタッフ間で検討し情報の共有をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や趣味・趣好を把握し、入所してからも生活の中でできることを楽しみながら行えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合ったケアをに努めている。ちょっとした変化(体調や表情のしぐさ)を大切にし、送りやスタッフ間でのコミュニケーションとスタッフ全員が把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の思いや要望を伺い、アセスメントを行い、月に1回のカンファレンスでの意見やアイデアも取り入れ介護計画を作成しモニタリングをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や普段とは違ったことなどの気づきを記録に残し、送りや会議の時に情報の共有をし実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人にあったサービス、家族の希望を取り入れまた、心身機能活性運動療法等も活用し柔軟な支援をできるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を開き、区長さん、地域の民生委員の方に参加していただき協力を得ている。又地域の行事等にも積極的な参加に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1人ひとりの表情や行動の変化を常に観察し毎日の申送りで把握し早めの対応に努めている。家族への連絡および病院受診、こまめな記録にも心がけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	リーダー、入浴者、スタッフの情報を得、早めの対応に努めている。夜間は併設の病院にて緊急時の協力をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院された場合、日々の情報を病院関係者に伝え、又入院時の様子等も、面会を通して退院後のため病院関係者からの情報を得ている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期の説明は家族に行っている。その人らしい終末期になる様また、家族の方も安心して納得のいくような最期であるよう家族の身になって看護・介護をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会等で救急蘇生での対応は、全スタッフ出来る様研修を受けている。又その際の連携などのマニュアルも作成し、緊急時に備えている。ミーティングなどで話し合いをしている。		
35	(13)	○災害対策			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回の防災訓練実施で災害時の対応がスムーズに出来る様に努めている。停電時の対応や避難するときの衣類なども準備し併設の病院と連携できるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーに配慮し言動に注意して業務を行っている。スタッフ間同士で日々のケアの中でも尊重しての対応を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人を主体に、表情や全身での反応を注意し深くキャッチしながら本人の要望や好みを把握し安心して話し合える環境になることを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑の都合に合わせるのではなく個人の体調状態を観察し楽しみや喜びを見つけられるよう支援している。一人ひとりのペースに合った暮らしの支援に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の理美容の方の訪問(散髪、時には化粧等楽しんでいただいている)を行なっている。ご本人の希望を伺い、その人らしいおしゃれが出来る様に、本人の意向を聞きながら身だしなみの介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、苑の畑で収穫した物を食べて楽しみに繋がる様に支援している。食器洗いや食器拭き等も出来る範囲で一緒に行っている。行事等の食事は、利用者様の希望に添ったメニューを考えている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理下で、摂取すべきカロリーを提供している。一人ひとりの状態、状況に応じて食事の形態を考へ、水分も十分摂取できるように心がけている。また、水分補給ができない方は茶ゼリーを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持	今後、口腔ケア、お茶のこがいをやる様		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア、お茶でのつかいをする様に声かけている。夕食後は義歯洗浄が出来る様援助している。協力歯科医より義歯の調整等をしていただいている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時でのトイレ誘導や、排尿間隔を把握し、声掛けを行っている。又排泄のサインを出される方もいらっしゃるので、見逃さずその度誘導し失敗やおむつの使用頻度を減らせるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週に1回はさつまいものおやつ、又、毎日手作りのヨーグルトも食べていただいている。便の状態をみながら水分を多めにとってもらったり、緩下剤もその方に合わせて飲んで頂いたり調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回のペースで入浴していただいている。ご本人の体調、気分配慮し、一番に入浴したいという要望等も考慮しながら行っている。入浴できない方は、ドライシャンプーや足欲、清拭等の対応を心がけている。3回/W入浴の援助をおこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や状況に合わせて日中に短時間の間の臥床時間を設けたり、ソファアなどもくつろげるようクッションやひざ掛けを用意している。又、寝具棟は安心して眠れるようご本人様が使用されていたものを持ち込んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はファイルしてスタッフ全員がいつでも確認できるようにしている。症状変化時、薬の追加があれば、申し送りし、把握できる様にしている。副作用に注意しバイタル測定や体調の変化に気をつけている		
48		○役割、楽しみごとの支援	出来る事や 喜ばれていた事など 本人様		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	山本君や、目こぼれていた事など、本人様の役割をみつけ一緒に行なっている。(洗濯物たたみ、食器拭き等)月1回の生花教室や、行事(誕生会、日帰り旅行、季節行事等)を計画し実施している。晩酌をたしなまれる方は夕食後に提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様に希望や必要に応じて家族・スタッフの付き添いにて通院等の外出の支援を行なっている。コンビニなどにも同伴して買い物に言っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望や状態によって、所持していただいている。買い物に行きたいときは同伴している。ご本人が管理できない方は家族様より預かり管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を家族の方に取り次ぎ、話してもらったり、携帯電話を持たれている方は自由に電話してもらっている。又阿蘇市内であればTV電話が活用できる状態である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾る様心掛けたり、スタッフ手作りの季節の壁飾りを毎月作っている。玄関前・テラス等所々にテーブル・椅子を配置し、使用している。庭にはベンチを置いて夕涼みができるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下にソファを置き、好きな時に座ってもらっている。居心地のよい関係が出来る様見守っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様が以前使用されていた馴染みの家具・寝具等を持ち込んでもらい、安心して居心地よい暮していただける様配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は手すりを設置している。十分なスペースで車椅子などもゆっくり移動できる。トイレに看板を付けたり、手すりを使用し、歩行・立位が出来る様工夫している		